

学び舎の日々を振り返って

副学長（入試担当） **井原 郁夫**（機械システム工学専攻昭和59年3月修了）



私事で恐縮ですが、2025年3月をもって長岡技科大を定年退官いたします。同窓生の一人として、学び舎の日々を振り返り、思いを綴りたいと思います。

入学当時の思い出

1980年4月、私は本学3期生として、創造設計工学課程3年次に編入学しました。当時は開学3年目ということで、私達の学年の下には学部1、2年生（技科大では俗称として旧カリと呼ばれている学生群です）、上には4年生と修士1年が在籍していました。新構想大学として誕生した本学が、ハード面・ソフト面ともによりやく体裁が整い、教育・研究機関として完成形に近い形で動き出した頃であったと思います。当時印象に残っていることは数多いですが、一つ挙げれば、入学式の際、川上正光学長が壇上で、私達新生一人一人全員に握手をされたということです。握手の際に私に対して（おそらく新生全員に対して）小声ではありましたが力強い口調で「頑張ってくれ」とおっしゃられた声が、今も耳に残っています。当時の私にとって川上学長はある意味でカリスマ的存在でしたので（私は川上学長の著書に感化され長岡技科大への入学を決意したという経緯もある）、入学式でのその激励の言葉に気分が高揚し、「よし、本学で頑張らねば」という思いに駆られたことを鮮明に覚えています。些細な出来事ではありますが、人をポジティブにさせるとはそのようなものかと二十歳の若輩が学んだ次第です。

私のキャリアパス

私の学部、大学院での4年間を総括すると、勉学と研究が8割、遊び2割という感じでした。大学院修了後、3年間の企業勤務の後、本学の助手に就き、紆余曲折を経て、博士学位を取得、それを機に、少し遅めではありましたが、大学人として本格的なキャリア形成をスタートしました。私の場合、やや複雑な事情もあり他大学にて学位を取得するという回り道をしましたが、結論から言えば、慣れ親しんだ場所とは異なる環境で新たな研究に取り組んだことは、その後の私のキャリア形成に良い意味で大きく影響を及ぼしました。ところで、1990年代の大学は、今よりも教員を取り巻く環境が制度的にも時間的にも柔軟性があり（良い意味で自由度が高かったように思います）、私には少し長めの海外赴任（カナダ）が許され、帰国後は学生指導と好きな研究に没頭できました。当時、学内の雑用に悩まされた記憶はほとんど無く、むしろ、適度なバランスで雑務に向き合えたため、雑用自体が面白く、それを有意義に感じることにすらあったように思います。その意味で、大学でも働き方改革が叫ばれ、本務以外の雑用がネガティブに捉えられている昨今の風潮には少し違和感を覚えています（雑用から学ぶことは少なくないと思います）。若手教員であった頃（助手から助教授にかけての時期）、本当に多くの先輩に助けていただき、そのおかげで現在の私があります。「捨てる神あれば拾う神あり」とはまさにそのとおりで、本学に奉職以来、善き先輩に巡り合えたことは何より幸運でした。これまでお世話

になった全ての方々に感謝するとともに、ここ数年は恩返しの期間だと考えて学内外の仕事に取り組んでいます。これまでの自分を俯瞰し、私が学生や教職員とどのように関わり、何を伝えてくれたのかを自問自答するとき、少しの満足と大きな反省が頭をよぎります。

同窓生に向けて

人は誰も新しい環境で何かを始めるとき不安や緊張を感じ、それがストレスになることもあります。しかし、周囲を見渡せば不安をポジティブに捉え、それを糧に成功を勝ち取る人もいます。要は心の持ちよう次第ということです。長岡ゆかりの明治の詩人、堀口大学さんの詩「自らに」の一節に「雨の日は雨を愛そう、風の日は風を好もう」とあります。雨や風をネガティブに捉えて不満に思うのではなく、今日の天気を受け入れ、その中に良さを見出し味わうことのできる柔軟な心を持つことの大切さを、我々に語っているように思います。新社会人となられる卒業生、修了生はもちろんのこと、既に社会人として職に就かれている皆さんの中にも、国内の様々な場所で新たな生活をスタートされる方は少なくないと思います。自然災害などで不自由な生活をしばらくは余儀なくされている方もおられるかもしれません。海外に生活拠点を移す人も少なくないと思います。それぞれの新しい環境（国、地域、職場、家庭）に順応するには多少の時間と努力を要するかもしれませんが、どうか柔軟な心をもってそこでの生活を楽しんでください。そして、置かれた場所で存分に実力を発揮してください。皆さんの仕事の成果が社会に還元され、その成果が世界の人々の幸福な暮らしに波及するとき、皆さんの母校である本学のプレゼンスもまた一段高まることになります。本学は2026年に開学50周年を迎えます。同窓生の皆さんがそれぞれの能力と適性を最大限発揮され、社会で活躍されることで、開学50周年に花を添えていただければ大変有難いと考えています。



機械建設1号棟5階から眺める越後三山：
左から、駒ヶ岳、中ノ岳、八海山、手前の建物は学生宿舎

復活！開学記念マラソン大会の開催

大会報告

同窓会副会長 **芳賀 仁**（2004年 エネルギー・環境工学専攻修了）

平成24年に「復活！開学記念マラソン大会」を同窓会主催で開催して以来、コロナ禍も乗り越えて毎年継続してマラソン大会を実施しています。令和5年に第12回大会そして令和6年に第13回大会を実施いたしました。マラソン大会の定着により参加者が増えて、応援企業も増えています。マラソン競技は親子参加、小学生を対象にした2kmコース。学生、一般向けの5km、10kmコースをそれぞれ技大周辺に設けて実施しました。マラソン大会後には参加者との懇親ならびにボランティアスタッフへの慰労として懇親会も実施いたしました。本イベントを通じて同窓会と長岡技科大そして地域の皆様との交流と親睦を大いに深められています。卒業生の皆様も是非ともお越しください。

次回(第14回)は9月27日(土)に実施します！

「第12回 復活！開学記念マラソン大会」

日時：令和5年9月30日(土)

参加人数

- ・スタッフ 81名
- ・ランナー(2km 107名、5km 91名、10km 105名)
- うち地域から147名

大会成績

2km

- | | | |
|----|--------------|-------|
| 1位 | 山田 空李(地域) | 8'14" |
| 2位 | 白井 彪瑚(OBご家族) | 8'32" |
| 3位 | 桑原 佳瑚(地域) | 8'37" |

5km男子

- | | | |
|----|-----------|--------|
| 1位 | 中脇 匠悟(B4) | 15'43" |
| 2位 | 西方 太地(地域) | 16'06" |
| 3位 | 綾野 陽仁(地域) | 16'24" |

5km女子

- | | | |
|----|------------|-----------|
| 1位 | 高橋 あゆみ(地域) | 19'28"大会新 |
| 2位 | 西沢 彩(地域) | 23'51" |
| 3位 | 金子 桜歩(地域) | 24'14" |

10km男子

- | | | |
|----|--------------|-----------|
| 1位 | 長谷川 聡一(M2) | 31'44"大会新 |
| 2位 | 鈴木 康平(在校生家族) | 34'36" |
| 3位 | 斎藤 和樹(M2) | 35'43" |

10km女子

- | | | |
|----|-----------|-------------|
| 1位 | 大野 彩佳(地域) | 連覇38'53"大会新 |
| 2位 | 西方 愛恵(地域) | 41'50" |
| 3位 | 伊丹 敬子(地域) | 49'40" |

「第13回 復活！開学記念マラソン大会」

日時：令和6年9月28日(土)

参加人数

- ・スタッフ 65名
- ・ランナー(2km 113名、5km 70名、10km 151名)
- うち地域から192名

大会成績

2km

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1位 | 高橋 豊(OBご家族, 小学5年) | 8'00" |
| 2位 | 西方 彩花(地域, 小学6年) | 8'26" |
| 3位 | 山田 希生(地域, 小学5年) | 8'33" |

5km男子

- | | | |
|----|-----------|----------|
| 1位 | 中脇 匠悟(M1) | 連覇15'56" |
| 2位 | 西方 太地(地域) | 16'27" |
| 3位 | 高井 滋(地域) | 16'30" |

5km女子

- | | | |
|----|----------------|--------|
| 1位 | 金子 里絵(地域) | 21'07" |
| 2位 | 寺岡 あさひ(地域) | 22'43" |
| 3位 | 西沢 彩(地域, 中学2年) | 24'57" |

10km男子

- | | | |
|----|--------------|--------|
| 1位 | 大平 玲(地域) | 34'24" |
| 2位 | 小林 逸郎(OBご家族) | 34'55" |
| 3位 | 徳武 学(地域) | 35'12" |

10km女子

- | | | |
|----|--------------|--------------|
| 1位 | 大野 彩佳(職員ご家族) | 3連覇36'57"大会新 |
| 2位 | 西方 愛恵(地域) | 38'46" |
| 3位 | 渡辺 香織(地域) | 43'09" |

同窓会の集い2023開催報告

同窓会の集い「参加」報告

サノヤテクノサポート(株)代表取締役社長 **花田 恵二** (機械システム工学 一期生)

2024年9月14日 長岡技術科学大学で開催された「ホームカミングデイ」に参加させて頂いた。本会への参加は、長岡、東京、大阪の各会場と今回の4回目となります。何人かの恩師や一期生との再会も果たし、毎回、楽しかった思い出話に時間を忘れる良い機会となっています。

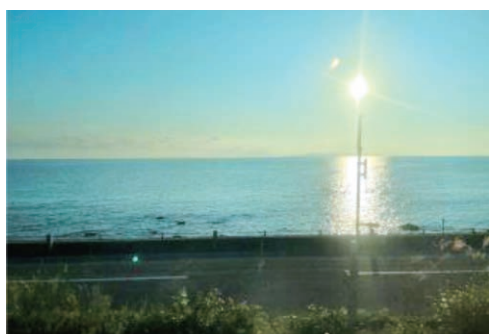
今回は仕事の都合で、山形県からの移動となりました。東北地方の豪雨の影響もありバスとJRの乗り継ぎとなりましたが、車窓から見る最上川や夕日が沈む日本海や弥彦山の稜線が印象的でした。

同窓会の当日は大学祭の開催日でもありました。いくつかの研究室を紹介する学内ツアーに参加し、女性の在学の方に丁寧な案内をして頂きました。

防災やレスキューが疑似体験できる研究展示もあり、時代を反映したテーマが多いと感じました。また、A講義室で開催された、パネルディスカッションも新しい試みでよかったと思います。技術開発の取り組みとして紹介された歯科医療用の接着剤など、卒業された方々が社会で活躍されていることも知ることができました。



最上川



日本海

一方、「大学祭」では、バンドの演奏や模擬店も多く出店されていました。

一期生の私として、開学当初では考えられないくらい「華やか」で「国際色」が豊かでした。早速、いくつかの「模擬店」を回って食材を求め、図書館に併設された部屋で昼食を頂きました。

今回の大学訪問の目的は、同窓会への参加がメインですが、もう一つの目的は、長岡技術科学大学の特徴である「産学共同研究」のシーズを探すことでした。大学祭の前日の9月13日、産学官連携コーディネータの担当者様を訪ね、お時間を頂きいくつかの研究室をご紹介頂きました。

長岡技術科学大学の強みの「実産業界で有益」なテーマを何とか共同で取り組みがスタートできるよう今後とも情報交換をお願いしたいと思います。

末尾となりましたが、毎回開催にご尽力いただいている皆様に厚く感謝申し上げます。



岐大祭



同窓会の集い

告知

同窓の集い2025 開催

【開催地】 東京

【日 時】 2025年11月22日(土)

開催場所等の詳細は決まり次第、同窓会ホームページ掲載します。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

同窓会の集い2024開催報告

『同窓の集い、という自分さがしの会へ参加して』

2025年3月吉日 6期生(機械系) 橋本 斉

昨年『同窓の集い2024』に久しぶりに出席してみると、実に多くの方が元気に集い旧交を温めている光景を目にし、この回を立上げ継続して戴いている大学関係者・同窓会関係者に感謝を申し上げます。

さて、この度は『同窓の集い2024』への投稿機会を戴き、『同窓の集い』へ2度・3度となぜ足を向けるのかを考えてみたい。その思いを語り、『同窓の集い』への感謝とさせて戴きます。

私たち6期生の殆どはこの正月で62歳の年の方で、丁度40年前には実務訓練の真っ只中の22歳。通常の大学では卒論へ没頭している時期に、本学のモットー『VOS』を形成する大きなイベントを10月～3月の6か月間で成し遂げる。同窓会で話し出すと、卒論や実験のこと以前に、機械系では3年の設計演習、4年の実務訓練は待たなしの実践ワークの中で技術者魂を叩き込まれる。そうして大学院修士2年間へと歩を進める素地(覚悟・ビジョン)を形成し、進学をしていたのだと思っています。

当時の私が選んだ実務訓練先は日本鋼管(現JFEスチール)で、勤務地は大径溶接管工場(鶴見製作所)でした。当時、大径の溶接管を角型溶接管へロール成型で製品化する技術を大成する新規ラインの立上げに学生に経験をさせてくれるという計らいは、今思うととても有り難い経験であったように思えます。人と違う経験(厳しい冬の夜勤を経験できたこと・技術の確立を目指す泥臭い立上げ支援・地道な計測の繰り返しによる実践と理論の探り合い)は、その後の人生において大きな自信へととなり、パイオニアという企業の中でも遺憾なく発揮できていたと自負しています。この経験こそが、私の『VOS』を形成する原点のように思います。

10人いれば10人の『VOS』が語られることこそが、技大らしい独創性だと思います。話が少し脱線しますが、私たちが実行委員会をした第3回技大祭のテーマは『躍進・我ら独創AGE(写真参照)』には『VOSの精神』を思い描き、唯一無二の技大祭をメンバー各々の視点で発信した学祭であったと記憶しています。『Vitality』、『Originality』、『Services』をひとり一人が一つ一つ

を育み、発信をするところに意味を為すのだと思っています。

こういった背景をもって世に出たそれぞれの『開学50周年(2026)』を前にして集う『同窓の集い』が、今年(2025)・来年(2026)と大いに盛り上がることを期待しています。『同窓の集い2024』への投稿がお声がけの主旨にて、少し昨年の会を思い起こせば、学部も違う同期と二人で久々に一献(二次会)ができたことは良い時間となりました。学部だけで固まることのない同期であった仲(関係性)がとても懐かしく、学内が一体化していた記憶が蘇ります。因みに彼との話題は、セカンドキャリアの形成についてで、私の30年以上勤めたパイオニア(先駆者の意味を持つ)という企業での誰もやらないことを求め続けた時間・経験が、今、製造業を中心とする中小企業の経営者の皆さまの話し相手(コンサル)をさせて戴けている原動力になっていることを肴に新潟の美酒を堪能しました。(笑)

こうした背景の中迎える『開学50周年(2026)』を機に、更なる大学の発展を祈念致します。また、この度このような機会をくださった編集委員の坂田様をはじめ、『同窓の集い』幹事長磯部さん・ほか面々へ感謝を申し上げます。(笑)

乱筆・乱文、ご容赦のほど…。



第3回技大祭ポスター

震災の記憶と防災への思い

東洋建設株式会社 鳴尾研究所 研究顧問 辻本 剛三 (1981年度 建設工学課程修了)

1977年8月、悠久山の麓にある長岡高専で推薦入試を受けました。面接と小論文があり、タイトルは「我が師、わが友」だったように記憶しています。それから約半世紀、母校は来年10月に開学50周年を迎えます。この節目に際し、同窓会報への寄稿を依頼され、筆を取りました。

一期生は今年68歳となり、多くが一線を退いています。私も2023年3月、神戸高専34年、熊本大学7年の41年間にわたる教員生活を終えました。長岡での学生生活を起点とすれば、約50年の時が流れました。この間、忘れたい出来事は数多くありますが、阪神・淡路大震災から30年目を迎える今年、震災の経験について書きたいと思います。

私は1995年1月17日の阪神・淡路大震災と、2016年4月14日・16日の熊本地震を体験しました。前者では、未明の激しい揺れの中、家族を守るため、すぐに子どもたちの部屋へ駆けつけ、倒れそうなタンスを支えながら安全な場所へ移動させました。幸い自宅は倒壊せず、家族も無傷でしたが、街の惨状を目の当たりにし、改めて自然災害の恐ろしさを痛感しました。

後者では、熊本大学に赴任した直後、12階建てマンションの11階で地震に遭遇しました。阪神・淡路大震災時の2階とは異なり、高層階特有の大きな揺れを体感しました。情報源はラジオと携帯電話のみで、震度7と知ったとき、人生で二度目の強烈な揺れを実感しました。

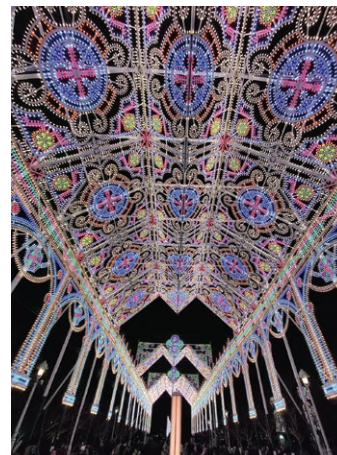
翌日、大学の防災関係者とともに益城町へ調査に向きました。熊本市内は被害が比較的少なかったものの、益城町では家屋の倒壊や道路の陥没が目立ちました。ただ、阪神・淡路大震災の被害と比べると、震度7のわりに被害が少ないように感じました。しかし、その違和感はすぐに払拭されました。16日未明、さらに大きな本震が発生し、強烈な揺れで目を覚ました。

机の下に潜り込みながら、間に合わない緊急地震速報を聞いた瞬間の恐怖は忘れられません。

一人暮らしの不安の中、東京・大阪・神戸・山口と離れた場所にいる家族とリアルタイムでメールを交わしました。家族の声がけが心の支えとなり、恐怖が薄らいだのを今でも鮮明に覚えています。そのときのメールは、家族の絆の証として今も携帯電話に保存しています。

災害の教訓を生かすことが大切だと言われますが、私自身の経験からは「生き残るためには建物の耐震性向上が最も重要」だと確信しています。南海トラフ地震が懸念される中、地震と津波の複合災害に備えるためには、事前の防災準備が生死を分ける鍵になります。家族や個人で、どのタイムラインでどのように行動するかを事前に共有することが、被害を最小限に抑えるポイントです。

震災の記憶を風化させることなく、次世代へ防災意識を伝えていきたい。そして、「怖い」という思いを一人で抱え込まず、思いを共有できる環境を作ることが、防災の第一歩であると考えています。



鎮魂の光_神戸ルミナリエ

ホームカミングディ2024

社会人学生として過ごした長岡技術科学大学

精密機器メーカー勤務 **岡部 知行**（情報・制御工学専攻 令和2年度修了）

この度は長岡技術科学大学同窓会報への寄稿の機会を頂きましてありがとうございました。長岡技術科学大学には社会人学生として、2014年4月～2021年3月の7年間に在籍致しました（専門職大学院技術経営研究科 専門職学位課程 システム安全専攻(現：大学院工学研究科 修士課程 工学専攻 システム安全工学分野)：2年間、大学院工学研究科 博士後期課程 情報・制御工学専攻(現：大学院工学研究科 博士後期課程 先端工学専攻 材料工学分野)：5年間）。

システム安全専攻は社会人のみを対象としたカリキュラムとなっており、技術経営・安全技術・安全マネジメントに関する講義や演習を、土日祝日を利用して集中的に受講するというスタイルでした（受講場所は長岡技術科学大学または東京サテライトキャンパス）。システム安全専攻の修了研究として、当時の所属先が材料メーカーということ踏まえ、材料と安全の関わりを探究したいと思い、「構想設計段階に着目した光機能性材料のリスク評価手法」というテーマで取り組みました（指導教員：大塚雄市准教授、副指導教員：櫻井茂雄実務家教授）。仕事と並行しての学びや研究は大変でしたが、何とか2年間で修了出来ました。

情報・制御工学専攻には、システム安全専攻から学内進学致しました。大塚先生に引き続きご指導を頂き、「材料に関する故障モード解析手法の開発に関する研究」をテーマとして、博士論文研究を遂行致しました（大学に通学して実験する研究スタイルでは無かった為、長岡には月1程度の通学でした）。博士号取得には査読付論文2報以上の採択（+国際会議での口頭発表1件以上）が必要であり、査読付論文の採択という要件を満たすのにかなりの時間を要しました。5年掛かりましたが、何とか（夢の1つでもあった）「博士（工学）」を取得出来ました。ちなみに情報・制御工学専攻を修了した令和2年度は、新型コロナ禍が発生した年であり、研究指導や博士論文審査は全てオンラインでした。修了式にも出席出来なかったのは残念でした。

2024年9月、ホームカミングディ2024のパネルトークのパネリストとして登壇頂く機会を頂き、実に5年半振りに長岡技術科学大学を再訪致しました。当日は「在学時の状況とこれからの50周年への期待」というテーマで話題提供させて頂き、諸先生方・同窓生・在学生との交流は大変新鮮でした。

本稿の執筆を通じ、長岡技術科学大学で学びや研究の日々は、大変幸せな時期であったと強く実感致しました。今後は長岡技術科学大学開学50周年記念事業サポーターとして、母校への恩返しを果たしていけたらと考えております。



平成26年度専門職大学院入学式の様子
(長岡は吹雪でした…)

会員寄稿

研究者としてのコアをつくる

ハナマルキ株式会社・R&Dセンター・醸酵研究室 高橋 健司（2015年12月 生物統合工学専攻修了）

皆様におかれましては益々清祥のこととお慶び申し上げます。私は地元の工業高校から本学へ入学し、学部、修士、博士課程、ポスドクと11年間も本学にお世話になりました。長く在籍していたせいか、今でも本学で過ごした日々は昨日のことのように思い出されます。せっかくですので、この機会に私の話をさせていただければと思います。

まず、皆さんは研究室での研究内容についてどのようにお考えでしょうか。研究室での研究は基礎的研究で会社に入ってから使うことはないと考えている方もいるのではないのでしょうか。私自身、研究室では微生物学と遺伝子工学を専門としていましたが、現職では発酵食品に係る研究および新製品開発を行っており、研究室と会社の研究内容に大きなギャップがあることは事実です。しかしながら、弊社には遺伝子に関する知見がほとんどなかったのですが、本学在学中の経験を活かし、微生物のPCRやシークエンスなどのシステムを社内に導入しました。さらに、発酵食品から製品の品質に大きく関与する微生物を単離し、実際の製品開発や食品安全につなげることができ、やりがいを感じております。

また、発酵食品以外にアサリなどの貝類の研究や食品衛生、調理科学などの分野外の研究も行っております。当初は専門外の分野に戸惑いもありましたが、本学で培った思考力や問題提起・解決能力が、これら分野の研究においても大いに役立っていることを実感しています。特に、論文などの文献調査や実験計画の作成、データ分析といった研究プロセスは、分野が変わっ

ても共通する重要なスキルです。本学在籍中の研究を通して培われたこれらの能力は、専門分野を超えて応用可能であり、新たな分野に挑戦する際の大きな武器となっています。本学での学びは、知識だけでなく、研究者としてのコアを作る貴重な経験であったと改めて感じています。

研究室では非常に多くの時間を先生や先輩と過ごしますので、研究に真剣に取り組むほど、衝突することもあるかもしれませんが、研究だけではなく、多くの時間を共に過ごした、かけがいのない仲間としての大切なつながりがあると感じております。本学を修了してから10年近く経ちますが、こうして係わりを持てることに心から感謝しております。最後になりましたが、本学の在学生、同窓生の益々のご発展を心より願っております。ありがとうございました。



2010年 学生時代の先輩と著者(右)



2024年 仕事で偶然にも再開

独創性を社会に還元する挑戦—大学発スタートアップの現場から

長岡技術科学大学発スタートアップの株式会社パンタレイ 佐藤 靖徳（2021年3月 技術科学イノベーション専攻修了）



佐藤靖徳と申します。2021年3月に長岡技術科学大学の5年一貫制博士課程 技術科学イノベーション専攻を修了し、現在は同大学の特任助教（2025年3月まで）を務める傍ら、大学発スタートアップ企業である株式会社パンタレイの代表取締役を務めています。

私の大学時代の原点は、秋田高専から長岡技術科学大学へ進学したことにあります。在学中、インターンシップで半年間インドに滞在し、インド工科大学マドラス校やインディラガンジー原子力研究所で研究活動を行いました。また、博士課程1年次には、指導教員の高橋勉先生がポスドク時代に所属していたスタンフォード大学フラー研究室へ留学し、最先端の研究環境を体験しました。博士課程3年次には、三井化学との共同研究プロジェクトに参画し、修了後も高橋研究室の特任助教として研究活動を継続しています。

パンタレイは、高橋研究室（前身は白樫研究室）の技術シーズを社会に還元する目的で設立されました。設立の理念には、長岡技術科学大学の川上初代学長が入学式で述べられた「大学は研究成果を社会に還元する義務を持つ」という言葉を掲げています。この理念を体現するため、パンタレイでは、教員と学生が共に啓発しあいながら独創された技術を社会実装することを目

指しています。

パンタレイは、世界5カ国で特許を取得した独自の風力発電技術を基盤としたスタートアップ企業です。この技術は、系統接続を必要としない独立型および分散型電源として、災害時や電力インフラが整備されていない地域での利用が期待されています。さらに、NEDO事業の一環として、寺泊水族館でフィールド試験を実施し、企業との共同開発や新技術の導入可能性を模索しています。

近年では、都立大 / 大気社 / 小島プレス / パンタレイの4者で大気中のCO2を吸収するためのNEDOムーンショット事業に採択され、パンタレイはパッシブ型集風システムを開発します。本事業の総予算は20億円であり、パンタレイから一部の予算長岡技術科学大学に再委託される予定です。流体力学やレオロジーの専門家集団として、この技術を通じて持続可能な社会への貢献を目指しています。

パンタレイは設立4年目を迎え、ようやくスタートラインに立ったところです。私自身、地元の奨学会や大学のサポートに支えられて現在の挑戦が可能となりました。パンタレイが大学発スタートアップの成功例として、研究成果を社会に還元する良いモデルとなることを目指しています。そして、長岡技術科学大学が今後も研究と教育を通じて新しい価値を生み出す場であり続けることを期待しています。

技大スピリットの伝承

株式会社 TMEIC 齋藤 勇（電気・電子システム工学専攻 平成13年3月修了）

長岡技術科学大学の在学生、同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度は、同窓会会報誌への寄稿の機会をいただきましたこと、大変光栄に思います。

上富岡の学び舎をあとにして、早いもので四半世紀が過ぎようとしています。修了後、現在の会社に就職して以降、運にも恵まれ、一貫して国内外のプラントの電力応用機器のシステムエンジニアリング業務に従事し、紙面に載るようなプロジェクトに携わるなど、お陰様で充実した会社員生活を過ごさせていただいています。

大学生生活の思い出を振り返ってみますと、研究室（パワーエレクトロニクス研究室：パワー研）で過ごした濃密な時間が真っ先に浮かびます。よく研究し、よく遊び、そしてよく呑みました。並大抵のことでは屈することのない現在の自分の根幹を成しているのは、大学時代の経験に他ならないと思っています。

昨年の11月に、技大の恩師である野口 敏彦教授が退官を迎えられることを祝して、研究室メンバーや関係者あわせて総勢60余名でOBの集いが開催されました。

久しぶりに顔を合わせた同期や、修了以降一度も会うことが叶わなかった後輩とも再会を果たし、昔話や近況報告、懐かしい合言葉（現今ではコンプラ問題？）などに花を咲かせながら、楽しい時間を過ごすことができました。一次会、二次会で終わることなく、学生時代を彷彿とさせる丑三つまで、日本酒

を片手に語り合うことができ、各人がそれぞれの場所、ステージで技大スピリットを持ちながら、パワー研イズムを忘れることなく活動していることに大変感銘を受けました。長岡技術科学大学と私はくも同じ1976年に産声を上げ、まもなく50周年を迎えます。節目の年に向け、自分の原点に気づく機会を与えてくださったOBの集いに改めて感謝しております。

精神論的なものは今の時代に流行らないかもしれませんが、技大生に脈々と受け継がれる技術者としての気概・矜持は、どの分野においても活躍を後押ししてくれると思います。在学生の皆様におかれましては、自然と備わるこの特徴は実践を通じて先鋭化されると思いますので、学業・研究をはじめとした沢山の貴重な経験を積み、更なる成長をされることでしょう。

末筆ながら、本学ならびに在学生、同窓生の益々のご多幸を祈念いたします。



活動報告

長岡技大が日本一に! Formula Gymkhana 2024 全国優勝報告

長岡技術科学大学 自動車部 2024年度部長 **越塚 リョウ** (工学専攻機械工学分野修士1年)

自動車部の現部長を務めております越塚です。この度はこのような寄稿のお話を頂きまして誠にありがとうございます。自動車部が令和6年度に参加した大会の結果および日々の活動について報告させていただきます。令和5年から開催されている自動車競技大会、Formula Gymkhana(フォーミュラジムカーナ)の令和6年度大会に長岡技大自動車部が参加し、全国大会優勝いたしました。この大会は全国の大学対抗の競技大会で、全国から書類選考を通過した30大学が参戦しました。

大会の特徴は、純粋な運転技術を競うため、「イコールコンディション」で行う点です。一般に、自動車競技は選手の技量だけでなく、車両の性能も勝敗に大きく関係する要素です。しかし近年では競技で用いられる車両の中古車価格が高騰し、大学自動車部においては各大学の格差が拡大してしまっている状況です。この現状を打ち砕くため、自動車メーカーをはじめとした多くの企業の協力のもと、全チームが同じ車両、同じ条件のもと競い合うことをコンセプトに開催されたのが本大会です。用いられる車両はトヨタ ヴィッツで、全チーム同車種が貸し出されます。競技形式はジムカーナと呼ばれる競技で、一台ずつのタイムアタックを行い、決められたコースをターンやスラロームなど基本的な動作をこなして走り抜ける、運転技術の基本が詰まっています。奥が深い競技です。

大会は地区予選と全国大会に分けて行われました。令和6年6月30日に行われた予選大会では長岡技大を含む関東、東北を中心とした大学10校が参加しました。1チームにつき選手3人がドライバーとなり運転しますが、技大チームは前年度から総交代となり3人とも初めての参加となり少し不安のある中での走行でした。しかしそんな不安も吹き飛ばすように好タイムを残し、合計タイムが2位の中央大学チームに約5秒もの大差をつけての1位で東日本予選優勝となりました。

そして令和6年9月22日に全国大会に進出しました。3地区ある予選から上位10チームが参加となりました。大会当日は大雨でしたが、後半にかけて晴れ、良いタイムを残すことができました。最終的にはかなりの接戦になりましたが、ドライバー3名とも大きなミスなくタイムを残せたことが決め手となり、優勝に至りました。

このような結果を残すことができたのは、様々な理由があると思いますが、理由のうち一つは新潟県の土地柄によるものではないかと考えます。新潟県はジムカーナ競技を練習できる場所が比較的多いです。サーキット場はもちろん、夏場は使われないスキー場の駐車場を練習場所として貸し出

しているところもあります。またジムカーナ競技を趣味として取り組まれている方は多く、いろいろな技術を教えてくれます。このような恵まれた環境に助けられ、勝利をつかむことができました。来年度は大会の規模が拡大し、参加チーム数の増加が予定されています。また車両もよりハイパワーな車種に変更され、よりレベルの高い戦いとなると思いますが、来年度以降も変わらず部で丸となって全力でぶつかっていききたいと思っています。

自動車部では、今回の大会のみならず様々な活動を行っています。個人的にジムカーナ競技大会に出ている部員や、軽自動車で5時間サーキットを走り周回数を競う軽耐久レースに参加する部員など様々です。また各々の車両の整備や修理も自動車部の活動の一つで、自分で手を動かすことで車両の構造の理解が深まります。このように、他では得られない貴重な経験を活動を通じて得ることができ、非常に有意義な時間であると思います。

また、自動車部は様々なOBの方々とのつながりがあり、今日まで活動ができています。今回のFormula Gymkhana全国大会には20名ほどの多くのOBが応援に駆けつけていただきました。また、毎年5月のGWにはOBを招いた走行会、12月にはOBに向けた活動報告会を行い、毎度多くのOBの方々にお越しいただいております。ここまでOBの方々とのつながりが根強い団体も希少なのではないかと思います。

最後に、OBの方々をはじめとする多数の方々に支えられて活動を行うことができていることに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



RoboMaster2023, 2024大会報告

Phoenix Robots 谷口 諒 (機械創造工学課程 令和6年度学部卒業見込み)

Phoenix Robotsの代表を務めております、谷口諒と申します。表題にあります大会についての報告の前に簡単ではございますが、弊団体の主な活動内容について紹介させていただきます。

弊団体はRoboMasterと呼ばれる、中国の深圳という都市で開催されるロボット競技の世界大会出場を目指して活動をしている団体です。RoboMasterの中国大会では、最大7種類のロボットが一試合の中で活躍します。メンバーはロボット製作やRoboMasterに興味を持つ技大生や高専生を中心に構成されています。メンバーの中には今までロボット製作といった経験はなく、Phoenix Robotsをきっかけにロボットに興味を持ったメンバーも多くいます。

中国で開催されるRoboMasterに出場するためには、日々のロボット製作活動の他に、渡航のための資金を集める必要があります。地域の企業・団体をはじめとする多くの方々のご支援によって成り立つことができています。この度は同窓会より助成という形でお力添えいただきました。そして、私たちPhoenix Robotsは2023年、2024年と2年連続でRoboMasterの世界大会に出場することができました。厚く御礼申し上げます。

弊団体は2020年より活動をしておりますが、2020年から2022年まではコロナ禍の影響により、中国渡航の夢を果たすことができませんでした。しかしながら、2023年にはコロナ禍が落ち着き、初めて中国へ渡航することができました。さらに、初出場ながら香港のチームに1勝を挙げることができ、チームとして大きく飛躍した年となりました。

2023年に続き、2024年も私たちは深圳へ渡航することができました。7台のロボットの設計を一から見直し、2023年よりもパワーアップしたロボットで大会に望みました。しかし、結果は振るわず、目標としていた国際杯1位を達成することができませんでした。他チームのロボットの進化に驚かされ、世界大会というレベルの高さを実感した年となりました。

2年連続で現地大会に参加させていただいたことで、中国の強豪チームとの技術交流など、私たちのチームにとって非常に大きな学びを得ることができました。この貴重な経験を生かし、Phoenix Robotsはリベンジに向けて、日々のロボット開発に励んで参ります。また、地域への恩返し活動といったし、世界大会出場ロボットの操縦体験や展示といった活動を行っております。次世代のエンジニアの育成、そして地域のものづくりの発展に少しでも貢献できることを願っております。改めて、この度は弊団体の活動にお力添えいただき心より感謝申し上げます。今後とも温かく活動を支えていただけますと幸いです。



2024年大会出場時の様子

技大祭の近況報告

たいこう よしき
太閤 良樹（物質生物工学分野3年）

卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。本年度の技大祭実行委員長を務めさせていただきます、太閤良樹と申します。

私は徳島県出身で、高専を卒業後、初めて新潟県へと足を踏み入れました。雪国での生活も大学生活も初めての経験であり、戸惑うこともありましたが、日々新たな発見に恵まれ、充実した時間を過ごしております。

毎年9月に2日間に渡って開催される学園祭「技大祭」はいまや新潟県内最大級規模の学園祭となり、地域と大学が一体となって多くの人を楽しんでもらえる場所となっております。

運営を担う実行委員会は、総務局・企画局・渉外局・情報局・制作局・財務局の6つの局で構成され、企画立案、広報活動、アプリ開発、予算管理など、多岐にわたる業務を担当しております。学生主体で準備を進めることで、実践的な経験を積みながら成長の機会を得ています。

昨年度の技大祭は80店の模擬店を置き、18種の企画を実施いたしました。2日目は大雨にもかかわらず、累計4,000人以上の来場者が訪れ、大盛況となりました。

本年度の第44回技大祭のテーマは「千客万彩」。ただ賑わうだけではなく、関わるすべての人が自分らしさを発揮し、心から楽しめる学園祭を目指しています。

卒業生の皆さまも、ぜひ技大祭にお越しいただき、母校の活気あふれる姿を感じていただくと幸いです。今後ともご支援とご声援をよろしくお願いいたします。



●2025年度会計報告

1. 一般会計収支 <自：令和6年3月1日～至：令和7年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	4,968,504
利息	2,126
マラソン大会 参加費	94,500
同窓の集い参加費	624,000
内田エネルギー科学振興財団助成金	100,000
前期繰越金	5,966,203
合 計	11,755,333

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	56,880
	広報費	24,561
	助成・貸与	1,576,410
	活動経費	2,714,750
	同窓の集い懇親会	832,078
	小計	5,204,679
事務費	会議費	438,338
	雑費	14,080
	小計	452,418
新規積立		0
次期繰り越し		6,098,236
合 計		11,755,333

2. 積立金会計収支 <自：令和6年3月1日～至：令和7年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(定期)	42,000,000
新規積立	0
合 計	42,000,000

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	42,000,000
合 計	42,000,000

令和7年3月15日

会計担当 坂田 健太

令和7年3月15日

監事 床井 良徳

山田 康博

●2026年度会計計画(案)

1. 一般会計収支 <自：令和7年3月1日～至：令和8年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,000,000
利息	2,000
前期繰越金	6,098,236
マラソン大会 参加費	100,000
同窓の集い参加費	1,500,000
合 計	12,700,236

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	500,000
	助成・貸与	1,200,000
	活動経費	4,000,000
	同窓の集い	2,000,000
	小計	7,800,000
事務費	会議費	500,000
	雑費	50,000
	小計	550,000
新規積立		0
次期繰り越し		4,350,236
合計		12,700,236

2. 積立金会計収支 <自：令和7年3月1日～至：令和8年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(定期)	42,000,000
新規積立	0
合計	42,000,000

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	42,000,000
合計	42,000,000

令和7年3月15日

会計担当 坂田 健太

編集後記

本会報へのご寄稿ありがとうございました。今年は11月22日に同窓の集いを開催します。皆様と会えることを楽しみにしております。今後とも同窓会にご協力よろしくお願い申し上げます。

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <https://nut-alumni.sakura.ne.jp/>Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。

長岡技術科学大学同窓会報 令和7年3月◆日発行